

海辺の館

楽問のススめ

がくもん



社会派マニアックのススめ



本体約150cm四方の探査機「はやぶさ」
(小さくても頑張り屋)



相撲人気の秘密とサイエンス

最近よく教育現場などで耳にする「リテラシー」という言葉をご存じでしょうか。このリテラシー(Literacy)とは、社会生活をおくる上で必要不可欠な力のことで、従来は「読み書きできる能力」といわれてきました。しかし、情報化が進む現代では、「知識(情報)を組み合わせて使いこなす能力」と捉えられています。そして、リテラシーのなかでもこれからの子供たちにとって、科学的リテラシーの向上が重要とされています。

つまり、これから生きていく子供たちには、基本的な科学的知識と考え方を身に付けて、さまざまな問題の解決に応用する能力が必要になると言われているのです。

しかし、日本の科学教育の現場では理科の学力低下が指摘されています。最近発表された国の機関の報告によると、学年があがるほど子供たちは理科が嫌いになり、興味・関心も低くなる傾向があるそうです。さらに、成人の科学に対する知識や理解も同様に低いとする指摘もあり深刻です。

なんだか暗くて難しい方向に話が向いてしまいました。では、こちらで楽問のココロを楽しく問題に取り組む精神を発揮して、今度は皆さんが良く知っている相撲でリテラシーについて考えてみましょう。

科学的リテラシーの定義に、相撲のリテラシーをあてはめれば、「基本的な相撲の知識と考え方を身につけて、さまざまな問題の解決に応用する能力」と考えることができます。うーん。なんだかよくわかりませんね……。それでは、片想いに悩む人に「押しの一手だよ!」、押しすぎてケンカになってしまったら「ここが土俵際だね」、素直にゴメンナサイが言えない言い訳は「突っ張ることが男の勲章ヨ!」など、相撲の専門用語が日常の問題解決に活用さ

「へえ、そうなんだ」の言葉には

朝青龍も琴欧州も知らない私を面白がって「相撲は国技だから、お相撲さんはみんな国家公務員なんだよ」と、ある知人が言いました。思わず「へえ、そうなんだ」と応えてしまった私は、そのときから「天然ボケ」のレッテルをはられてしまいました。

でも、ちよつと言いつつをさせてもらえば、「へえ、そうなんだ」の返事は、お相撲さんが国家公務員と信じたから思わず出た言葉ではなかったのです。

テレビのニュース番組を見ているでもスポーツコーナーになるとチャンネルを変えてしまう運動オンチの私は、ただ、お相撲さんの身分に関心がなかっただけなのです。

一方、ある日その知人に「日本の探査機がもうすぐ小惑星に到達するんですよ」と話題を提供したところ、返ってきたのは「へえ、そうなんだ」という、身に覚えのあるつれない返事。さらに、「聞いたことないけど」という不審そうなオマケの一言もついてきました。それは、探査機「はやぶさ」の小惑星イトカワ到達まであと2カ月に迫った、昨年夏のことでした。